

教材名		『ふるさと山梨』の章・ページ	
行ってみよう あのまち この場所		第3章 P.42, 43	
教科(領域)等	社会科・総合的な学習の時間	学年(分野)	4年生～6年生

1. 教材のねらいと概要

山梨県の交通網とそのつながりを知るために県下の国道及び主要な県道を表示するとともに、中央高速道路、中部横断道、富士河口湖道路などの高速道路、そして、JR中央本線、JR身延線、JR小海線、富士急行線などの鉄道路線を提示している。
これらの県内を網羅する交通網を知ることにより市町村のつながりや日常生活の中でどのような交通機関を使い生活しているのか、また、交通機関を活用することでどのように世界を広げていけるのかを知らせることで県内全域に興味・関心を広めたい。

2. 活用例






①

教科名等	単元(題材)名等	総合的な学習など	時間
活用場面	活用のポイント		
県外から来た友達を案内しよう。	①甲府に行ってみよう。②富士山に行ってみよう。③ふるさと山梨で見つけた気になるまちに行ってみよう。という3段階の構成であり、児童や地域の実態に合わせて計画を立てることで県内の色々な場所への交通網のつながりを実感することができる。自由研究のテーマとしても活用可能である。		45分

②

教科名等	単元(題材)名等	総合的な学習など	時間
活用場面	活用のポイント		
校外学習での行先や経路の確認	校外学習に出かける折に自分たちが通る経路や利用する交通機関、また、目的地付近の市町村について事前学習することで1日の活動全体を有意義なものにしていく。		15分

3. キャラクターの投げかけの意図と解答

ページ	投げかけの言葉	意図	解答例
P.42 	県外の友達を案内するならどこにつれていってあげようかな？そこでどんな説明ができるかな？	山梨県の中で自分が案内したいと思う名所はどこなのか、また、自分はそのことをどれだけ知っているのかということを考えるきっかけにしたい。	甲府市の文化施設や富士山など価値ある場所が多くあるとともに交通機関を利用することで自分でそれらの場所に行くことができる。
P.43 	甲府市に行ってみましょう。	県庁所在地である甲府市にどのような施設があるのか、また、自分が住む市町村とどのような交通機関で結ばれているのかを考えることで自分の住む地域の立地を考えさせたい。	県庁、科学館、美術館、文学館などをはじめとした実際に見学に行く意義のある公共施設があり自分の家からバスや鉄道を乗り継ぐことで行くことができる。
P.42 	富士山に行ってみましょう。	世界遺産として世界中から観光客が訪れる場所であり、自分が住む県にあるものなので、そこまで自分で行くための手立てを考えることで身近なものであることを実感するとともに、行ってみたいという気持ちをもたせたい。	例1：自宅→バス→JR駅→電車→大月駅→富士急行線富士山特急→徒歩 例2：自宅→バス→JR駅→電車→甲府駅→富士急富士山行バス→徒歩
P.43 	リニア中央新幹線ってすごく速いんだよね。どのくらい速いかなあ？	リニア中央新幹線の興味を喚起し、山梨の未来に期待を膨らせる。	東京から名古屋まで40分
P.43 	この本でみつけたまちや場所に行く計画を立ててみましょう。	ふるさと山梨で興味を持ったまちや場所に実際に行ってみることでより理解を深めさせていきたい。	各自の計画

4. 写真・資料の補説

(1) 地図

地図については鉄道、高速道路、国道、主な県道をのせている。また、市町村名ものせているのでおおむね自分の住む町と主に交通機関を結ぶことができる。

(2) 甲府市のようす

甲府のまちの写真：県内随一の都市であり、子どもたちにとって興味深い場所である。

(3) 富士山特急

魅力的なフォルムであり、これに乗ってみたいという気持ちも活動の動機付けになると考えられる。

(4) 山梨交通バス

県内を網羅する交通網の一つであり、子供でも利用できる乗り物である。